

全学共通教養教育カリキュラム・ポリシー

- 同志社大学の建学の精神である「良心教育」をさらに発展させることを目的として、「キリスト教主義」、「自由主義（自治自立の精神）」、「国際主義」という3つの教育理念に基づき、良心を手腕に知識・能力を運用し、社会に貢献する人物を育成するために、全学共通教養教育科目を開設する。全学共通教養教育科目は、科目の特徴や狙いにより大別した4つの科目群「同志社科目群」「基礎学術科目群」「グローバル教養科目群」「イノベーション創出科目群」とそれに属する科目区分「同志社科目区分」「人文科学系科目区分」「社会科学系科目区分」「自然科学系科目区分」「人間科学系科目区分」「国際教養科目区分」「外国語教育科目区分」「ライフデザイン科目区分」「クリエイティブ・ジャパン科目区分」「トピック科目区分」を設ける。全学共通教養教育での学びを通して、自立的、主体的に価値判断を行い、行動する上で必要な素養である知識・技能、倫理観、規範意識、論理的思考力、美意識、主体的な行動力、寛容性と協働性、コミュニケーション能力、バランス感覚、さらには健康的な心身といった総合的な人間力を身に付ける。さらに、AIに代替されない、人間ならではの独創的なアイデアが創出できる柔軟性、感性、クリエイティビティを身に付け、新たな社会的価値およびイノベーションの創出へとつなげる能力も育成することを到達目標とする。また、全学共通教養教育の全ての科目区分において、論理的思考力と規範的判断力の養成を目指す。卒業要件における履修単位数あるいは必修科目等については、各学部のカリキュラム・ポリシーに従って別途定める。
- 「良心と進取の気性に溢れ、グローバル化する世界で新たな価値を創造できる人物」を養成することを目的として、「グローバル・リベラルアーツ副専攻」を設置する。「グローバル・リベラルアーツ副専攻」では、少人数クラス編成により、留学生とともに英語で学ぶ対話型授業を前提とした科目を中心とする「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」と、キリスト教について理解を深める科目など全学共通教養教育科目を幅広く履修する。また、別に定めるいずれかの試験を本学入学以降に受験し、TOEFL iBT®テスト79相当以上のスコアを得ることを求める。
- 文理を問わず、デジタル社会の基礎知識である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能を身に付け、各自の専門分野での学修や社会生活においてこれらを道具として活用し、新たな価値を創造できる人物の養成を目的として、「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」を設置する。
「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」においては、「データを読む、説明する、扱う」といった基本スキルを身に付けるとともに、社会の変化、社会におけるデータ・AIの活用領域と利活用例、利活用における様々な留意事項を理解できるように、プログラムを構成する。
「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」においては、リテラシーレベルの教育を補完的・発展的に学ぶことで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力や、AIを活用し課題解決につながる基礎能力を修得し、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得できるように、プログラムを構成する。
「データサイエンス・AI副専攻」は、応用基礎レベルの学びに加えて、各学部で開講している学部専門科目を選択科目とすることも可能としており、学部の専門性を活かせる学びのプログラムとなっている。エキスパートレベルである専門家への学びに、よりスムーズにつながれるように、プログラムを構成する。
- 創造性、柔軟な発想、新しいアイデアに取り組む姿勢を養うために、複雑化する現代社会の課題を深掘りし、既存の枠組みにとらわれることなく、新たな価値を創造できる人物を育成することを目的に、「同志社イノベーション・ゲートウェイ(DIG)」を設置する。「同志社イノベーション・ゲートウェイ(DIG)」では、ビジネス・経済に限らず多様な分野で、創造性を発揮しながら挑戦し続け、問題解決に向けて積極的に行動できるようになるための基盤を築く。AIやデータサイエンスの基礎的知識や、「感性価値」の創造と受容に必要な力を培うとともに、フィールドワーク、グループディスカッション、企画および提案活動を通じて、他者との協働力を養い、課題に取り組むことで解決能力とコミュニケーション能力も高める。
- 「同志社科目群」は、「同志社科目区分」と「人文科学系科目区分」の「宗教学(1)」「宗教学(2)」で構成され、建学の精神である「良心教育」を学び、「キリスト教主義」に対する理解を深める。
- 「同志社科目区分」は、長い歴史と豊かな伝統を有する本学に関する総合的理解を基礎としながら、キリスト教的倫理観・人間観・価値体系への理解を深めることを到達目標とし、講義に行事参加などを随時組み合わせた科目によって構成する。
- 「基礎学術科目群」は、「人文科学系科目区分」「社会科学系科目区分」「自然科学系科目区分」「人間科学系科目区分」の4つの科目区分で構成され、基礎的、学術的な理論を学び、知識・技能を向上させる。
- 「人文科学系科目区分」は、宗教、哲学、芸術、歴史、考古学、文学、日本語についての学術的な知識や理論を学ぶことにより、人間と文化に関する幅広い理解をとおして、多様な価値観を積極的に受容することによって、現代社会の問題を主体的に発見し、公平かつ公正に解決することができる論理的思考能力と倫理観を身に付けることを到達目標とする。
- 「社会科学系科目区分」は、法律、政治、経済、経営についての学術的な知識や理論を学ぶことにより、人間の社会生活の基本的な仕組みを理解し、私たちを取り巻く社会現象や社会的課題に自ら目を向け、その背景や意味を認識するとともに、社会的課題の解決に向けて多様な側面から議論し、行動できる能力を身に付けることを到達目標とする。

■「自然科学系科目区分」は、宇宙の姿や地球・生命・物質の成り立ち、数理・データサイエンスの世界等についての学術的な知識や理論を学ぶことにより、人間と自然との関わり、現代社会を支える科学技術の動向や学術的背景を理解し、生活の中で科学的知見を基に能動的に考え、行動できる能力を身に付けることを到達目標とする。

■「人間科学系科目区分」は、生存に不可欠な人間のからだや心理・行動の仕組と機能に関する学術的な知識や理論を学び、スポーツや運動等をとおして、豊かな人生を実践できる技能を身に付けることを到達目標とする。

■「グローバル教養科目群」は、「国際教養科目区分」「外国語教育科目区分」で構成され、異文化および日本文化、世界の諸相ならびに諸課題の理解、外国語運用能力・コミュニケーション能力の養成をとおして、多様な文化的差異を認め乗り越える寛容さと協働性を身に付ける。

■「国際教養科目区分」は、「国際主義」の具体的実現を目指して、自国文化と異文化を相対化して理解する姿勢を身に付けることを到達目標とし、異文化に関して学ぶ講義形式の科目や、少人数クラス編成で受入留学生とともに学び、柔軟な思考力と、多様な文化的背景や価値観を持つ人々と協働する力を身に付ける科目や、海外研修をとおして、グローバル社会が直面する課題への理解を深めることを目的とした海外フィールドワーク科目により構成する。多数の科目を外国語で行う。

■「外国語教育科目区分」は、「国際主義」の具体的実現を目指して、グローバル社会で求められる外国語運用能力を身に付け、外国の文化・社会の特質と多様性について理解することを到達目標とする。「外国語教育科目」は、大学入学までに基礎を学修してきた英語の中級レベルから上級レベルまでの科目と、大学入学後に初めて学修する初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語）の初級レベルから上級レベルまでの科目から編成し、英語と初修外国語それぞれの教育課程の体系性と順次性に留意して設置された科目を、学生は個々の関心と習熟度に合わせて履修する。

*英語では、1年次で英語学習の基盤づくりを目的とした科目を履修し、2年次で分野（文系・理系）を横断して共通に求められる英語力と各領域（人文・社会・理工）で求められる英語力への基盤づくりを目的とした科目を履修することにより、英語で専門領域を学ぶための基盤を形成する。

学生の関心や目標に応じ、1年次から4年次にかけて、留学に必要な力を身に付けることを目的とした科目、職業として使う領域で求められる英語力を育成する科目、学術的な領域で求められる英語力を育成する科目を履修することができる。

*初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語）では、1年次で外国語の基礎を身に付けることを目的とした科目を履修し、2年次では4技能についてバランスの取れた運用能力の向上をはかるとともに、言語の背景にある文化事象に関心を広げることが目的とした科目を履修する。

留学や研究における使用に備えるなど、学生の関心や目標に応じ、1年次から4年次にかけて、実践的な外国語運用能力を向上させると同時に、文化的理解を深めることを目的とした科目、あるいは会話表現の習得を目的とする科目を履修することができる。

*英語、初修外国語ともに、海外提携校での集中的な語学研修に主体的に参加することをとおして、グローバル社会で求められる外国語運用能力を身に付けるとともに、外国の文化・社会の特質と多様性への理解を体験的に深めることを目的とした海外語学研修プログラム科目を履修することができる。

*なお、兼修外国語として、上記の初修外国語とは別に、イタリア語の初級レベルから中級レベルまでを学ぶ科目を履修することができる。

■「イノベーション創出科目群」は、「ライフデザイン科目区分」「クリエイティブ・ジャパン科目区分」「トピック科目区分」により構成され、陋習（ろうしゅう）に囚われない自由な発想から新たな社会的価値を創出する力を涵養する。学外のゲスト・スピーカーの招聘やフィールドワーク、実習などによる実践的な学びを重視し、講義で得られた知識の活用を実社会との接点において理解・体感することを目的とする。

■「ライフデザイン科目区分」は、人生全体における大学生活の位置付けや、課外活動の意味、そしてそれらと実社会がどのように結びついているのか、多様な価値観や社会の事例や取組等に触れながら、自身の価値観に対する理解を深めることを到達目標とする。

■「クリエイティブ・ジャパン科目区分」は、講義または演習をとおして、伝統、文化、芸術への高い関心を育み、「感性価値」の創造と受容の基礎となる力を身に付けて、創造力を涵養することを到達目標とする。実践知を扱うため、必要に応じてゲスト・スピーカーを招聘する。少人数クラス編成で受入留学生とともに学ぶ科目、外国語で授業を行う科目を含む。

■「トピック科目区分」は、時代・社会の情勢等に即したタイムリーな事象・話題をテーマとして取り上げ、多様な社会生活に対応するため、知識を習得し見識を広げることが到達目標とする。

座学形式、オンデマンド形式、PBL型等、授業の形式は問わず、現代的な課題を取り上げ、多様な見方や考え方があることを理解し、答えのない課題を多面的・多角的に考え、批判的思考の醸成にもつなげる。